

漁業経営支援のための漁場形成予測情報システムの構築～日本海を対象として～

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010174

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



漁業経営支援のための漁場形成予測情報システムの構築 ～日本海を対象として～

日本海区水産研究所 日本海漁業資源部
日本海海洋環境部

研究の背景・目的

1. 日本海の重要資源であるスルメイカ、ブリ、マアジは、近年概ね良好な資源水準を維持していますが、価格が伸び悩んでいます。さらに近年、燃油が高騰し、操業経費が増大することによって漁業者の経営を圧迫しています。
2. スルメイカ、ブリ、マアジの漁場形成は海洋環境、特に水温と深く関係しています。そのため、水温分布の予測技術を用いることで漁場の形成位置を予測することが可能になります。
3. 本研究課題では、日本海を対象に漁場位置を予測し、予測情報を漁業関係者に提供することで、効率的な操業計画の策定を支援し、漁業経営を支援することを目指しています。

研究成果

1. スルメイカの試験操業結果データベース（分布密度と水温の関係）と、日本海の表面及び水深50mの水温分布を用いてスルメイカの分布密度を

定量的（尾数/㎢）、且つ大きさ別に推定することが出来ました。推定結果では、春の日本沿岸域での魚群の北上や、秋の韓国沿岸域での南下状況が再現できました。

2. 日本海海況予測システム（JADE）と連携することで、1カ月前までのスルメイカの分布予測が可能になりました。
3. 予測結果は、地理情報システム（GIS）を用いた画像情報としてインターネットを通じて見ることが出来ます（図1）。

波及効果

1. これまで情報が不足・欠如していた韓国・北朝鮮及びロシア海域におけるスルメイカの分布状況も予測可能となり、沖合漁船の漁場探索の省力化、加工業者の原料調達計画の策定に役立つことが期待されます。今後、マアジ、ブリへの適用も試みていきます。

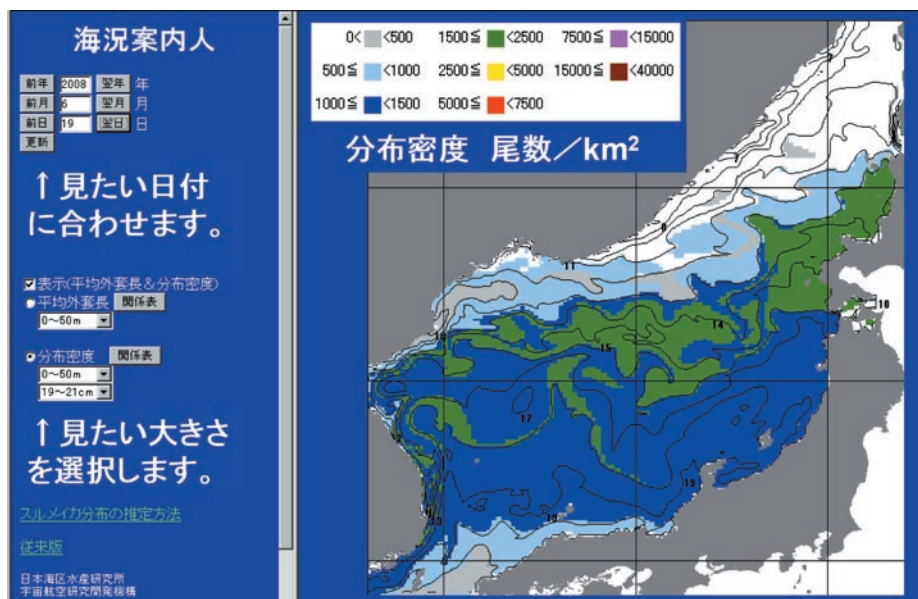


図1. スルメイカの分布予想図（2008年5月20日における1カ月前の予測分布図）
<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/shigen/kaikyo2/>